

「にこにこベリー」の促成栽培を対象にした クラウン冷却による第一次腋果房分化促進

施設園芸部 イチゴチーム TEL:022-383-8135

研究の目的

宮城県が育成したイチゴ品種「にこにこベリー」は夜冷短日処理をすると8月下旬から9月上旬に定植でき、高単価が期待できる年内の収量を増加できます。一方で、定植後の高温により第一次腋果房分化が遅延しやすくなります。そこで、クラウン部を冷却することで第一次腋果房分化の遅れを回避する技術を開発しました。

研究成果

クラウン部にPEチューブを設置し（写真）、定植10日後からチラー（冷却水循環装置）を利用して15℃に冷やした水を24時間、30日程度循環させると、第一次腋果房分化が促進され、8月20日定植では18日間、9月5日定植では8日間収穫開始が早まります（表）。

このことによって年内に頂果房を収穫した後の第一次腋果房収穫が始まるまでの間隔（収穫の中休み）を短くすることができました。



作型	クラウン 冷却	頂果房		第一次腋果房	
		開花始期	収穫始期	開花始期	収穫始期
早期夜冷 8/20定植	無し	9月13日	10月18日	11月28日	1月24日
	有り	9月15日	10月21日	11月20日	1月6日
	(日差)	+2	+3	-8	-18
夜冷 9/5定植	無し	10月9日	11月12日	12月5日	1月29日
	有り	10月12日	11月18日	12月2日	1月21日
	(日差)	+3	+6	-3	-8

（写真）クラウン冷却の様子

（表）クラウン冷却の有無による頂果房、第一次腋果房の開花始期、収穫始期の間隔の差

利活用の留意点等

PEチューブは冷却効果を高くするためにクラウンに接触するように設置してください。過度に冷却すると生育自体が遅れてしまいますので、水温が低い場合は稼働時間を短くするなどの調節が必要です。冷却期間は、定植後10日から30日間程度が目安ですが、必ず検鏡して第一腋果房の分化を確認してから停止してください。

より詳しい内容は「普及に移す技術」第101号（令和8年発行）
「「にこにこベリー」の夜冷短日処理による促成栽培を対象にした
クラウン冷却による第一次腋果房の分化促進」をご覧ください。
http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/res_center/hukyuu-index.html

